

# 一般質問

一般質問は市議会ホームページのインターネット議会中継で配信しています。



16人の議員が行った質問の中から、いくつかを取り上げて要旨を掲載

## まちづくり・環境

### 町内会のデジタル化を支援

**Q** 現在の電子町内会は、参加町内会の数や更新状況などさまざまな課題がある。現状の所見と改善点は。

**A** 電子町内会は、平成14年に本市が構築したシステムを町内会が利用し、ウェブサイトで地域情報の発信などを行うもので、地域の活性化や防災対策等に一定の効果があったと認識している。一方で、運用している町内会は89にとどまり、参加が増えない要因として、更新等の手間や担い手不足による負担感の増加などが考えられる。

今後は、町内会活動の負担軽減や担い手の育成・確保の観点から、システムの見直しも視野に入れ、町内会のデジタル化を支援していきたい。

### 西大寺地区へ誘客する取り組み

**Q** 瀬戸内国際芸術祭で犬島を訪れた方に、西大寺地区に来てもらいたい思いが地元では強くある。犬島から西大寺のアクセスをどう考えるか。



西大寺観音院へ誘客

**A** 令和7年度は、瀬戸内国際芸術祭を機に多くの観光客が犬島を訪れることが見込まれる。その効果を西大寺地区に波及させる好機と考え、芸術祭開催中の土・日・祝日に、犬島から宝伝港に着く船便に合わせ宝伝港を出発し、西大寺観音院、西大寺駅を経由して西大寺バスセンターまで向かうバスを1日1便運行する予定。

### リチウムイオン電池による 発火防止対策を

**Q** モバイルバッテリー、電子タバコ、充電式の電子機器のバッテリーなど、リチウムイオン電池を含むものが他の不燃ごみに混入し、処理施

設で発火のトラブルが増加している。令和3年度から5年度の市有ごみ処理施設での発火件数と被害額は。また、発火防止のさらなる対策は。

**A** 発火件数は3年度290件、4年度291件、5年度317件で、そのうち約8割がリチウムイオン電池に起因すると考えている。現在のところ発見直後に消火できている。被害は生じていない。発火防止のため、分別の徹底をさまざまな媒体で周知していく。

## 共生・防災

### 戦後80周年記念事業を計画

**Q** 令和7年は戦後80年の節目の年だ。世界では武力衝突などで多くの命が失われており、戦争は遠い過去の歴史ではないと考えるが、本市では記念事業を予定しているか。

**A** 7年6月の戦没者追悼式にあわせて記念講演、戦災の記録と写真展の展示エリアや期間の拡充、平和に関する連続講座の拡充、プレート設置などの戦災記録事業を行う。また、児童生徒が平和への思いをつづる岡山っ子平和メッセージなど一連の事業を、遺族会の意見も踏まえ実施する。空襲や戦争の記憶をとどめ、次の世代に継承するため、市民と一体になり平和への理解

を深める1年としたい。

### 子ども食堂に 継続的支援を望む

### 継続的支援を望む

**Q** 令和7年1月時点で子ども食堂は市内で38カ所と拡充しているが、開催は月1回程度の場所が多く、心を開いて相談できる信頼関係の構築は難しいとの声も聞く。運営は地域のボランティアの善意で担い、人員確保や資金調達などの課題もある。立ち上げ時のみの経費補助を継続的なものにできないか。



市内で開催されている子ども食堂

**A** 子どもの居場所が持続した運営となるよう、相談窓口の設置や運営ノウハウを助言するアドバイザー派遣などの支援を行っている。継続的な経費補助は行っていないが、他都市の状況を調査していきたい。

※1【子ども食堂】

地域のボランティアが子どもたちに対し、無料または安価で栄養のある食事や温かな団らんを提供する取り組み

結婚を希望する若者の出会いのきっかけづくりを進める

◎ 出会いのひろば事業を連携中枢都市圏の市町と協力して実施する狙いは。また、令和7年度事業の工夫点、想定する参加人数は。

▲ 連携中枢都市圏の10市町から参加希望があり、一部事業の参加者を圏域市町に在住・在勤の方まで広げ、結婚を希望する若者の出会いの機会の拡大等を図る。また、7年度は専門事業者に委託し、若者のニーズや流行なども踏まえ企画内容の充実を図る。参加人数は未定だが、効果的な事業となるよう努めていく。

避難所トイレの必要数を確保

◎ 大規模災害時の避難所環境の改善について、スフィア基準<sup>※3</sup>の導入が求められているが、本市における災害時のトイレ数の基準の現状は。

▲ 内閣府のガイドラインを参考に避難者数50人に1基を基準に簡易トイレを備蓄しており、スフィア基準を踏まえたトイレの運用指針の作成を進めている。避難が中長期化する場合には、協定業者からの仮設トイレのレンタルなどにより、各避難所の状況に応じて避難者数20人に1基とするなど、災害用トイレの必要数の確保に努めていく。

予算特別委員会 質疑

16人の議員が行った質問の中から、いくつかを取り上げて要旨を掲載

産業・くらし

農業者の要望を予算に反映

◎ 本市は、災害が少ない恵まれた気候風土で全国有数の農業都市だ。令和7年度当初予算において、園芸作物に係る予算額が6年度から47%増額した要因は。また、どの事業内容に予算が必要と考えるか。



農業経営の安定化を推進

▲ 農業者の方々への要望調査を基に予算化しており、岡山ぶどう産地強化事業への要望が多かったことなどから、1260万円増額し、3940万円の予算額とした。

農業を持続的に維持・発展させるためには、新規就農者や担い手の農業経営規模拡大を図るとともに、近代化と効率化のための機械・設備の導入や、

予算特別委員会は市議会ホームページのインターネット会議中継で配信しています。



環境に配慮した農業に対しても支援を行いたい。

さらなるカスハラ対策に

取り組み

◎ 本市では、全国に先駆けて令和6年度から第2次消費者教育推進計画<sup>※6</sup>にカスハラ対策の項目を盛り込み、消費者を加害者にならないための啓発に取り組んできたが、実績と成果は。また、7年度の事業内容は。

▲ SNSでの配信や市内5つの大学で出前講座を開催したほか、岡山南高校と連携してラジオCMの作成・放送を実施した。参加した学生からは、カスハラの認識が深まるとともに、消費者と労働者双方の立場でカスハラ問題を理解する機運が高まったとの意見があった。7年度はより多くの市民に理解を深めてもらうため、ポスターやチラシの作成、出前講座やイベントでの周知・啓発、新聞等で広報を行う。

集中備蓄倉庫を新たに整備

◎ 令和7年度当初予算で、集中備

蓄倉庫の整備に6億5600万円余が計上されている。整備予定の地域と今後のスケジュールは。

▲ 北区田益地内に北区第2集中備蓄倉庫を、中区中島地内に中区集中備蓄倉庫の整備を予定している。いずれも市が管理する土地に計画しており、両倉庫とも夏ごろから工事に着手し、7年度末の完成を予定している。

野犬の人馴れ訓練に

ふるさと納税を活用

◎ 本市には多くの野犬が生息しており、怖い思いをしている方もいる。保護した野犬に人馴れ訓練をして譲渡する取り組みを進めているが、捕獲数・譲渡数が増え、経費の増加が課題だ。クラウドファンディング型ふるさと納税<sup>※6</sup>を活用した財源確保計画の事業概要は。

▲ 目標金額は700万円、募集期間は令和7年7月から予定している。返礼品は設けず、共感する事業への寄附とするため、岡山市民も参加可能だ。



保護された野犬の人馴れ訓練

※6【クラウドファンディング型ふるさと納税】地域への応援や貢献の思いを事業に反映させるため、寄附金の使い道の具体的な事業を示し、事業に共感した方から寄附を募る仕組み

※5【第2次消費者教育推進計画】令和5年度から9年度までの期間で、安全・安心で豊かな消費生活の実現を目標とし、自ら考え選択し行動する消費者の育成を目指す計画

※4【カスハラ】カスタマーハラスメントの略称。顧客が不適切な言動や過剰な要求を通じて、企業やその従業員に精神的・身体的な負担を強いる行為

※3【スフィア基準】災害などの被災者が尊厳ある生活を営むための人道支援活動における国際的な最低基準のこと

※2【出会いのひろば事業】ティーパーティーや料理教室などの出会いのきっかけづくりの場を提供する事業

## 自転車先進都市おかやまの推進

◎ 自転車通行空間ネットワークの計画に対する整備率と、計画路線以外の走行環境の整備の進め方は。

▲ 令和4年3月に策定した岡山市自転車活用推進計画<sup>※7</sup>では、前計画で進めた市中心部の重点エリアに加え、重点エリアにアクセスする都心アクセス軸と郊外主要駅周辺等の郊外スポット部の路線を選定し、路線の計画を36・2から119・8kmに延伸した。6年度末の整備済み路線の延長は41・1km、整備率は34・3%の見込みだ。まずは、計画に位置付けた路線における自転車通行空間の整備を着実に進めたい。



整備された自転車通行空間

## 子育て・福祉

### 保育士資格取得を支援

◎ 女性の就労を後押しし、安心して働いてもらうためには、保育環境

の充実・質の向上が必要だ。保育関係の事業者からは、養成校の学生募集の減少などにより保育士採用が厳しくなるとの声も聞く。保育士確保策の継続が必要と考えるがどうか。

▲ 令和6年1月時点の県内保育士求人倍率は5・38倍と非常に高い。また、保育士養成校の学生募集の減少により、なり手が減っており、7年度も保育士確保策を継続したい。加えて保育士試験等で資格取得を目指す方に対し、必要な経費を補助する制度を7年度から実施したい。

### 民間委託により

### 里親養育の推進を加速

◎ 里親養育包括支援事業<sup>※8</sup>として、令和7年度に民間委託する事業の内容と意義は。

▲ 里親制度の広報活動を行い、里親等に関する社会の理解を深めることで、養育しやすい環境を整えるとともに、里親を開拓する事業と、里親登録研修や登録後の実践的な研修を行うことで、養育の質の確保と、委託が可能な里親を育成する事業を行う。

里親養育を推進するためには、増加する業務量への対応や、民間の強みをいかす面から、民間機関と協働して進めることが効果的と考える。

## 予算特別委員会 委員長報告

委員長報告の中から一部掲載

### 岡山芸術創造劇場 ハレノワについて

大型バス・タクシーの乗降場所について、委員から、ハレノワ南側の旧市民病院跡地の活用も視野に入れる必要があるが、今後の見通しはどうかとの質疑があった。当局から、課題として十分認識しており、所管部局と今後の方針を協議していきたいとの答弁があった。さらに委員から、利用状況や来場者数が、昨年度より減少しているが何か対策はあるのか、練習室やアートサロンなど、もっとPRできないかとの質疑があり、当局から、練習室などのPRや、利用しやすいさの改善を指定管理者と共に考えていきたいとの答弁があった。

### 地域振興基金 活用事業費について

委員から、地域振興基金の目的に合致する事業に基金を利用しているが、地域と連携して総合的な地域振興につなげるには、もう少し工夫が必要ではないかとの質疑があった。当局から、

委員長報告は市議会ホームページに掲載しています。



地域振興は、まず生活機能の維持向上次に経済産業の振興、さらに地域の歴史文化が磨かれて、地域外の方にも見ていただけるようになる。本市の政策もこれらを3本柱として行っており、地域振興基金はそのための1つの材料で、一般会計の資金も使いながら、対象を絞って重点的に支援するものになっている。地域の生活機能の維持にはどういった観点が必要か、それに加えて地域の魅力アップには何が必要かを整理しながら、一般会計での事業、地域振興基金での事業を精査していきたいとの答弁があった。



令和7年度の予算を審査

※8 【里親養育包括支援事業】

里親の普及啓発・募集、研修、子どもと里親のマッチング、里親家庭への支援等、一貫した支援を行うもの

※7 【岡山市自転車活用推進計画】

成果をあげてきた「自転車先進都市おかやま実行戦略」の取り組みを継承するとともに、自転車を取り巻く環境の変化等を踏まえ、自転車利用環境をさらに充実させ、自転車の活用を推進することを目的として策定した計画